



平成 30 年度

自治振興区
活動促進補助金

実績報告書



目次

平成30年度 自治振興区活動促進補助金 実績報告書

- 地域の歴史文化の継承事業 庄原自治振興区・・・・・・・・・・ 1
- 地域に於ける「シルバーリハビリ体操」の普及活性化事業
庄原自治振興区・・・・・・・・・・ 2
- 地域福祉拠点及び緊急避難箇所整備事業 山内自治振興区・・・・・・・・・・ 3
- ふれあい水車（添水）改修事業 西城自治振興区・・・・・・・・・・ 4
- 八銚自治振興センター2階活用事業 八銚自治振興区・・・・・・・・・・ 5
- 小奴可の里特産品開発備品整備事業 小奴可の里自治振興区・・・・・・・・・・ 6
- 内名駅活用交流事業 田森自治振興区・・・・・・・・・・ 7
- 口和自治振興区文化財マップ作成事業 口和自治振興区・・・・・・・・・・ 8
- 永田いきいき広場公園整備事業 口和自治振興区・・・・・・・・・・ 9
- 古頃地域集会所活用事業 比和自治振興区・・・・・・・・・・ 10

1 自治振興区名	庄原自治振興区
2 事業名	地域の歴史文化の継承事業
3 事業費	1,811,741円（うち補助金1,408,000円、自主財源403,741円）
4 事業内容	

庄原自治振興区内には、先人が守り繋げてきた歴史的な資産（建造物・史跡・景勝地・街並み・動植物・無形文化財等）が多くあり、この資産を掘り起こし、これからの地域の担い手である子供たちに資産が生まれた由来や背景を正しく伝え、後世に繋げることを目的に資料作成の取り組みを行った。

区内の33自治会から「残したい・伝えたい資産」を抽出し、学識経験者の全面的な協力により、平成28年度から3年をかけて「歴史マップ」「資料集」「散策モデルコース」を各1,000部、「歴史展示パネル」1式を完成させた。この間、地域から出された多くの資産のうち145件を資料に掲載し、小学校・自治会・関係団体に配布し、地域の歴史学習・散策イベントなどに活用されている。

5 効果・変化

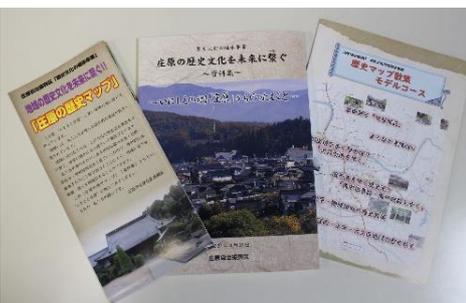
本自治振興区に「歴史文化継承委員会」を組織して、歴史的資産の掘り起こしから各種資料作成を行う過程において、地域の歴史文化と触れ合うことを通して、地域に少しずつ継承活動の取り組みが浸透してきた。

継承活動として、令和元年度から「自治振興区出前講座」を開設し、自治会・サロン等での歴史学習等の支援を行った（6自治会・3団体実施）。また、本区が加入している「庄原まちなか協議会」において、市民対象の「歴史散策イベント」を開催し、多くの参加者（20名）が地域の歴史と直接触れ合う場となった。

小学校においては、庄原小学校4学年（56名）の総合学習「上野池フィールドワーク」の支援を行い、地域の歴史学習と継承を行うことができた。

歴史文化の継承に欠かせない「語り部」の育成に向けて、「庄原の歴史文化を学び、未来に繋ぐ研修会」を計画した。

6 活動写真



資料集



展示パネル



自治会歴史学習



庄原まちなか協議会「歴史散策イベント」



庄原小学校「上野池フィールドワーク」

1 自治振興区名	庄原自治振興区
2 事業名	地域に於ける「シルバーリハビリ体操」の普及活性化事業
3 事業費	174,150円（うち補助金139,000円、自主財源35,150円）
4 事業内容	<p>庄原自治振興区においても、高齢者等の見守り活動や健康づくりに向けた様々な活動を行っており、高齢者の健康づくりと介護予防を目的として庄原市が推進している「シルバーリハビリ体操」の普及活動に取り組むため、その条件整備として「パイプ椅子配備整備事業」を実施した。</p> <p>シルバーリハビリ体操は、足腰が弱くなった高齢者に配慮して、パイプ椅子に腰をかけての体操が主な内容となっており、自治会活動や高齢者を対象としたサロン活動の中で実施するために、パイプ椅子の整備が必要とされていた。</p> <p>備品： 軽量アルミ製折りたたみ式パイプ椅子 25脚</p> <p>活動： 「シルバーリハビリ体操」の普及・活性化、高齢者の健康増進と介護予防の推進</p>
5 効果・変化	<p>① 実施回数の増加</p> <p>パイプ椅子の整備によりシルバーリハビリ体操の実施が容易になり、実施回数や参加者が増加した。</p> <p>実施回数（年12回 ⇒ 20回） 参加者（平均10人/回 ⇒ 15人/回）</p> <p>② 体調改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肩こりが楽になった。 ・階段の上り下りが楽になった。 ・体操を楽しみにしている。 ・健康寿命を意識して行動するようになった。 <p>③ 活動の広がり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち運びに便利なアルミ製パイプ椅子の貸出を行い、他の自治会から喜ばれている。（今年度7回） <p>④ 新たな活動</p> <p>庄原市シルバーリハビリ体操指導士会庄原支部と庄原自治振興区の共催で、庄原教室を開設した。</p> <p>（第1回）令和2年1月30日 （第2回）令和2年2月27日 会場：庄原市民会館集会室</p>
6 活動写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>老人会（毎月1回）での活動</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>小地域サロンでの活動</p> </div> </div>

1 自治振興区名	山内自治振興区
2 事業名	地域福祉拠点及び緊急避難箇所整備事業
3 事業費	583,521円（うち補助金466,000円、自主財源117,521円）
4 事業内容	<p>山内自治振興区高茂自治会では、地域活動の拠点となる集会施設「高茂公民館」を中心に地域コミュニティ活動の充実による地域振興に取り組んでおり、また、高茂公民館は地区民の避難箇所としても重要な役割を担っている。しかし、備品の老朽化により、自治会活動に支障も出てきており、また、テレビの設置がなく、災害時等の緊急時の情報を得ることができない状態であったため、難視聴を解消するためのアンテナ工事、テレビや劣化の著しい椅子を更新するなどの備品整備を図り、避難所としての機能充実と併せ、一層のコミュニティ活動の推進を図ることにより、明るく住みよい地域づくりに取り組んだ。</p> <p>① 備品の整備：テレビ1台（災害避難時の情報取得、各学習会で使用）、DVDプレーヤー1台（各学習会で使用）、椅子30脚（各学習会、地域行事で使用）</p> <p>② 施設整備：テレビ電波の難視聴解消のためのアンテナ設置工事</p>
5 効果・変化	<p>① 休止していた老人クラブを復活し、いきいき高齢者、若い者には負けない元気・学習する高齢者、社会奉仕する高齢者を目指して活動を行った。その結果、毎月の例会に合わせたシルバーリハビリ体操の実施や、テレビやビデオを活用した各種健康講座の開催、社会奉仕活動としての集会所の清掃や簡易な整備等々、老人クラブの活動が活発化し、高齢者の生きがいに繋がっている。</p> <p>② 自治会活動を始め、例月の各常会の集会、世代間交流の場としての頼母子講、女性会グループの活動、壮年会グループの活動、中山間地域関係制度の協議、水利組合協議等において、椅子・テレビ・DVDプレーヤーの活用をすることにより、参加者が増えている。</p> <p>③ 避難所として利用できるよう施設の維持管理を行うようになった。</p> <p>④ 集会効果が上がるよう、集会行事に有用なビデオ購入に助成するなどを計画している。</p>
6 活動写真	

1 自治振興区名	西城自治振興区
2 事業名	ふれあい水車（添水）改修事業
3 事業費	543,240 円（うち補助金：434,000 円、自主財源 109,240 円）
4 事業内容	<p>西城地域はかつて、水車の里と呼ばれるほど水車が生活に密着しており、大佐村自治会では平成4年に「田園風景、文化を次世代に残したい」という思いから、水車を復元して『地域文化の伝承施設』としていたが、築26年が経過し、雨風などの影響で老朽化が進んで稼働できない状況にあった。今回、水車小屋の改修を行い、体験型修学旅行の推進・拡大や伝統文化の継承など、地域住民の交流の場、観光拠点の一端を担う施設とすることで、地域の活性化を図った。</p> <p>改修内容：腐食した水車土台の取替、屋根の補修、導水路の改修</p>

5 効果・変化	<p>① 水車の稼働により精米が可能になり、イベント等で精米したお米を食べることができた。 第106回ふれあいの里で試食（H31.3.31 32名参加） 住民の声：「自分が元気なうちに懐かしい水車のお米が食べられて良かった」 「お米は少し黒いけど美味しかった」</p> <p>② 水車の音が周囲に響き、村民に安らぎを与える場所となっている。</p> <p>③ 遠足等で立ち寄る場所となり、昔の生活を体験することで、水資源での稼働等、後世に伝承ができる施設となっている。水車お披露目会（H31.2.3 17名参加） 遠足（H31.3.23 9名参加）</p> <p>④ 中国新聞に水車の記事が掲載され、各地より問合せ・訪れる人もでてきた。</p> <p>⑤ 周辺には、竹明わら工芸館、天戸神社等の観光スポットもあり、観光資源として一体的な発展が期待される。</p>
---------	---

6 活動写真	   <p>水車のある風景 水車見学の遠足 水車で精米したお米を行事で使用</p>   <p>水車が動いている様子</p>
--------	--

1 自治振興区名	八銚自治振興区
2 事業名	八銚自治振興センター2階活用事業
3 事業費	1,644,852円（うち補助金：1,315,000円、自主財源329,852円）
4 事業内容	<p>八銚自治振興センターは、中山間地域活性化を目的にした広島県の事業「ひろしまさとやま未来博2017」のプロジェクト「廃校リノベーション」に選定され、改修工事が平成30年3月末に完了した。改修工事の監修が世界的に有名な建築家、隈研吾氏であることからマスコミ報道等に大きく取り上げられ、一時『八銚』『小鳥原小学校』が全国的な知名度となり、改修工事中に来館者が急増した。</p> <p>改修後の活用を通して、季節に関わらず活動するためには空調設備が必要であるとの課題があったため、エアコンの設置を行い、交流拠点施設として四季を通じての利用促進を図った。</p>
5 効果・変化	<p>① サロン「くまさんのお家」を通年で開催することができた。</p> <p>② 広島経済大学の農業体験学習（7月 苗の中間管理）において学生の宿泊に利用し、一泊二日の体験学習を実施できた。</p> <p>※①②いずれも空調設備が整っており快適に過ごせたと好評であった。</p> <p>③ 令和2年度においては、地域内外の交流による地域活性化を目指し、来館者の大幅増に注力する予定であり、その前段として、令和元年9月に運営委員会を立ち上げたり、2階の二室を図書館的な利用や芸術関係のジオラマ・用品・用具展示等に活用するため現在準備中である。令和3年度早々にリニューアルオープン予定である。ホームページによる情報発信を積極的に行い、ヒバゴン発見から50年といった節目に合わせたイベントを企画している。</p>
6 活動写真	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>サロン「くまさんのお家」の開催</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>広島経済大学 農業体験学習での宿泊</p> </div> </div>

1 自治振興区名	小奴可の里自治振興区
2 事業名	小奴可の里特産品開発備品整備事業
3 事業費	1,284,120円（うち補助金：1,027,000円、自主財源257,120円）
4 事業内容	<p>当施設内の加工室では、平成元年からみそ作りを続けている。平成26年から小奴可の里自治振興区農産加工部として体制を整え、生産環境の充実を図っており、味噌加工機器（味噌こし機、蒸し器セット）を更新することで、生産作業の安全確保および生産効率の向上を図った。</p>
5 効果・変化	<p>今回購入整備した機器は、旧機器に比べて格段に高機能で作業性が良く、非常に安定的に使用できる。</p> <p>① 蒸し器 蒸気漏れが起こらず蒸し時間が安定している。所要時間も短縮された。設定どおりに一定の時間で均一に蒸し上げることができるため、他の作業との段取りや連携が飛躍的に向上した。</p> <p>② 味噌こし機 1釜（約17kg）をすり潰す工程時間が約20分短縮された。素材が詰ることがなくなり、安全で円滑な作業につながった。また、分解洗浄ができることから衛生面の信頼性が一段と高まった。</p> <p>機器を導入後、初の仕込みとなる平成30年度は、その仕込み量は625kgとなり、前年の522kgに比べて103kg、約2割の増産をすることができた。</p> <p>機器の更新後、2回目となる令和元年度の仕込み量は約750kgとなった。更新前の522kgに比べ約4割の増産を見込んでいる。みそ作りを始めて約31年が経過しようとしているが、材料の大豆や米は地元産にこだわり、休耕田の活用への取り組みが継続できている。また、今年度の出荷分から商品ラベルを一新したり、自治振興区広報やSNSなどで情報発信を行い、認知度の向上を図っている。</p> <p>パッケージや販売方法には、まだまだ工夫の余地があると感じており、常に改善を心掛ける活動を続けることで、受け継がれてきた地域の味を後世に伝え、地域外への発展ができるよう努力を重ねている。</p>

6 活動写真



蒸し器



味噌こし機

1 自治振興区名	田森自治振興区
2 事業名	内名駅活用交流事業
3 事業費	143,332円（うち補助金：114,000円、自主財源29,332円）
4 事業内容	

内名駅は、平成27年に実施した内名駅開業60周年記念事業以来、JR芸備線の秘境駅として鉄道ファンを中心に知名度が高まり、訪れる人も年々増加の傾向にあった。そこで、秘境駅として全国ランキングでも上位に位置する内名駅の記念シートと缶バッジを製作し、配布することで、地域内外住民との交流による地域の再生を進めた。（内名駅に置いて配布）

① 記念シート（A5版 4P カラー印刷）

JR芸備線や内名駅の沿革などのほか、国指定重要無形文化財「比婆荒神神楽」発祥の地にふさわしい舞の写真など、地域を紹介する情報を載せ、「秘境駅内名」「神々の棲む里田森」の魅力を発信。

② 缶バッジ（缶バッジ製作キット：マシン及びバッジφ38mm 250個）

缶バッジ製作キット及びバッジ材料を整備し、内名駅をはじめ地域の魅力をデザインした缶バッジを製作し、鉄道ファンをはじめ、訪れた人に配布することで秘境駅内名の魅力をさらに高め、交流を通じて地域を元気にする。

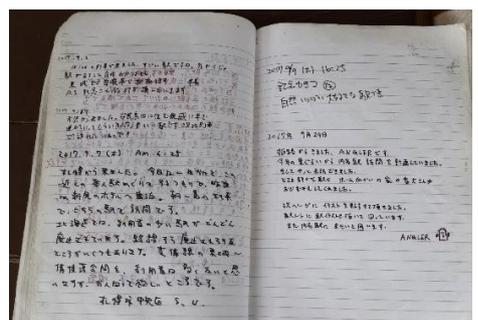
5 効果・変化

記念シートは、今回、内容を一新して3,000枚印刷し、令和元年12月で約410枚発行というペースである。缶バッジは、四季折々のデザインで缶バッジを製作するほか、自分で撮った内名駅を使っのオリジナルバッジの製作募集でPRに努めた。令和元年12月時点の缶バッジの製作個数は約1,000個である。

缶バッジは新たな話題提供となり、秘境の駅「内名」からの情報発信は、鉄道ファンを中心に確実に広がっており、内名駅に降り立つ人を迎え、交流することで、内名地区に暮らす人々が元気を取り戻している。また、記念スタンプを求めて自治振興センターを訪ねて来る押し鉄マニアと呼ばれる人もあり、この3年間で年平均25人が訪ねてきている。遠くは北海道、鹿児島からSNS等の情報を頼りに来訪している。何度かマスコミや鉄道雑誌に取り上げられ、最近では全国放送のテレビ番組で2回、地方番組で2回、新聞にも何度か掲載されたほか、ローカル線をテーマにした鉄道雑誌2冊が刊行されるなど、様々な形で紹介されるようになり、知名度は上がっている。

5世帯13人の地域ではあるが、「全国から訪れる人達との交流を続けることで元気がでる」と地域から喜びの声が上がっている。

6 活動写真



1 自治振興区名	口和自治振興区
2 事業名	口和自治振興区文化財マップ作成事業
3 事業費	319,865 円（うち補助金：255,000 円、自主財源 64,865 円）
4 事業内容	

口和地域では近年、尾道松江道建設に伴う文化財発掘調査等で新たな文化財が発掘されたことや、新庄原市への合併後 13 年が経過したが、口和地域内での文化財等への独自資料が作成されていなかったため、地域内の文化財を紹介するマップを作成し、地域内の小中学校の児童生徒をはじめ、広く地域内外へ周知した。

作成にあたり、中世の口和地域にゆかりのある武将を訪ねて安芸高田市の城跡や資料館等を見学するほか、講師を招聘し文化財の研修を行った。

平成 29 年度に口和地域内の学識経験者等によるマップ作成委員会を立ち上げ、口和町史などの文献を参考に地域の文化財について学習を行うとともに、平成 30 年度からはマップに掲載する文化財の選定や写真撮影、マップ編集会議を重ね、「くちわ文化財マップ」を完成させることができた。

5 効果・変化

- ① 新たな情報の収録
尾道松江道建設工事に伴い、口和地域で 11 基の遺跡発掘調査が行われ、曲第 2 号古墳から出土した「短甲」を筆頭に多くの出土品を紹介することができた。
- ② 読みやすさと情報量の増加
マップ作成委員会の委員は、9 の自治会からそれぞれ選出しているため、地域の情報をより細かく掲載することができた。また、従来のものより一回り大判で作成したため、活字も大きく、情報も多く掲載することができた。
- ③ 地域教育力の活性化
文化財マップを用いて中学生に地域の文化財の紹介を行った。今後はマップによる文化財巡り等を順次、実施していく予定である。
- ④ 地域内への広報活動
口和自治振興区広報誌「ふれあい広場」において、文化財マップで紹介しきれなかった情報を『くちわ探訪』といったコーナーで掲載した。（6 回）

6 活動写真

The collage consists of several photographs documenting the project. On the left is the cover of the 'くちわ文化財マップ' (Kuchikawa Cultural Heritage Map), featuring a traditional wooden shrine. The top row shows two photos of committee members working at tables: the left one is labeled '最終校正' (Final Proofreading) and the right one is labeled '割り付け' (Layout/Design). Below these is a larger photo of the committee working together, labeled '文化財マップ作成の様子' (The process of creating the cultural heritage map). The middle row shows a photo of members organizing materials, labeled '資料の整理' (Organizing materials), and a group photo of the committee members standing together. The bottom row shows a photo of a presentation to middle school students, labeled '文化財マップ作成委員が中学生に向けて口和地域の文化財について説明' (Cultural heritage map creation committee members explaining local cultural heritage to middle school students), and a photo of a field trip to a museum in Anagatani City, labeled '安芸高田市を訪問して中世の文化について学習' (Learning about medieval culture by visiting Anagatani City).

1 自治振興区名	口和自治振興区
2 事業名	永田いきいき広場公園整備事業
3 事業費	1,922,400円（うち補助金：1,537,000円、自主財源385,400円）
4 事業内容	<p>「永田いきいき広場」は、永田ふれあい自治会住民の憩いの場であり、広場周辺の花壇に草花の植栽をし、4月5月にはこいのぼりを揚げ、冬季にはイルミネーションを点灯するなど、高齢者から子どもまで、四季を通じて世代間交流の場として活用されてきた。平成19年に遊具を整備していたが、経年劣化により木製の遊具を撤去し、雲梯と背伸ばしベンチのみが残っている状況であった。</p> <p>今回、耐腐食性のある遊具とベンチを整備することで、集いの場としてのより一層の効果を図った。</p> <p>整備品：ブランコ1セット（スチール製） 滑り台1台（鉄製、特殊ポリエチレン製） のぼり棒1台（FRP製） ベンチ2脚（アルミ合金、再生木材）</p>
5 効果・変化	<p>① クリスマスイベントにあわせ、遊具のお披露目会を実施した。（平成30年12月22日） 子どもから大人まで約50人が集い、子どもたちは早速、新しい遊具で遊ぶことができた。特に滑り台が人気であった。遊具で遊んだ後、老人部の方と子どもたちで広場の花壇へ花植えを行い、クリスマス会を楽しむことができた。</p> <p>② 遊具が整備され、放課後や休日に親子で遊ぶ機会が増え、子どもだけでなく大人同士の交流の場として活用されている。</p> <p>③ イルミネーションが設置された場所は、交通量の多い交差点付近にあたる。イルミネーションが点灯して設置付近が注目されることで、交通事故の注意喚起や、夕方の薄暗い時間帯に通行している中学生等への防犯効果も期待できる。</p>
6 活動写真	 <p>いきいき広場 遊具開き</p>  <p>5月 こいのぼり</p>  <p>イルミネーション</p>  <p>新しいブランコ!</p>  <p>滑り台 次はボクだよ</p>  <p>みんなで広場に花を植えました</p>

1 自治振興区名	比和自治振興区
2 事業名	古頃地域集会所活用事業
3 事業費	1,988,868 円（うち補助金：1,591,000 円、自主財源 397,868 円）
4 事業内容	<p>古頃自治会では、古頃老人集会所を自治会活動、地域づくりの拠点として年間を通して様々な事業を行っている。しかし、老人集会所は高台にあり、子供や高齢者の利用のためにはフェンスや照明の設置が必要であったため、転落防止など利用者の安全面に配慮した周辺整備を行った。また、大型備品の保管などにより集会所が手狭になっていたため、屋外倉庫の改修を行った。</p> <p>① 周辺整備（フェンスの設置、夜間照明の設置） フェンスを設置して子供や高齢者の転落を防止する。盆踊りなどの夜間イベントの際、駐車場や広場での事故を防止する。</p> <p>② 倉庫の改修 大型備品の保管場所を集会所から屋外倉庫に変えることで、イベントの準備・片付けなどを容易にする。また、空いた集会所の部屋を有効活用する。</p>
5 効果・変化	<p>① フェンス、夜間照明の設置による効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや高齢者が安心して使える施設（広場・庭）となり、行事を安心して行えるようになった。 ・仮設フェンスや仮設照明を設置する必要がなくなり、準備・片付けが楽になった。 ・草刈りなど周辺整備を安心して行えるようになった。 ・仮設設備の借上料がなくなり、その予算を事業の充実に充てることができた。 ・広場及び屋外倉庫への照明設置により夜間の片付けなども問題なくできるようになった。 ・夜間照明で駐車場が明るくなり、イベントだけでなく夜の集会でも事故防止に役立っている。 <p>② 屋外倉庫の改修の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部屋が広く快適に使えるようになった。屋外で計画している行事が雨や雪の場合に集会所を気軽に利用することができるようになった。 <p>③ 集会所内が利用しやすくなったことによる変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに健康寿命についての出前講座を行った。（参加者 25 名） ・防災マップの再確認など、集会所を利用して集まることが増えた。
6 活動写真	